

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブソリューションサービシーズ
東京都港区東新橋1-9-1

今週の注目材料=米国の利下げ開始のカギを握る物価動向に注目

2024年3月11日

3月12日に2月の米消費者物価指数(CPI)が発表されます。

パウエル議長が議会証言において「インフレが持続的に2%に向かっていると確信が強まるのを待っている」「確信が得られるまでそう遠くない。確信が得られれば制約的な金融政策を引き下げ始めるのが適切」と発言しました。そう遠くない時点での利下げに言及したことで、市場は利下げ開始時期見通しについての注目が集まっています。

利下げのカギを握る大きな材料である物価。米国のインフレーターゲットの対象はPCEデフレータですが、発表が遅いこともあり、同系統の指標である米CPIに市場の注目が集まります。

前回1月のCPIは前年比+3.1%と、2023年12月の+3.4%から鈍化しましたが、市場予想の+2.9%を上回りました。変動の激しい食品とエネルギーを除いたコア指数は前年比+3.9%と12月と同水準の伸びとなりました。市場予想の+3.7%を上回る伸びとなっています。前月比は+0.3%、コア前月比は+0.4%とともに市場予想を上回りました。

内訳を見ますと、前回低下が目立ったのがエネルギー価格で前年比-4.6%。ガソリン価格低下を背景に11カ月連続でのマイナスとなりました。マイナス幅も12月の-2.0%から大きくなっています。ガソリン価格は-6.4%と2023年7月以来の低下となりました。食料品は前年比+2.6%と12月の+2.7%から小幅な鈍化。小幅とはいえ着実に鈍化が進んでおり、2022年8月の11.4%をピークに17カ月連続での鈍化となりました。

変動の激しい食品とエネルギーを除いたコア部分では、全体に占める割合(ウェイト)の比較的大きい自動車の価格低下もあり、財部門が前年比-0.3%とマイナス圏になりました。横ばいまではありましたが、マイナス圏は2020年5月以来となります。

一方強かったのがコアのサービス部分で前年比+5.4%と12月の+5.3%から小幅ながら伸びが強まりました。CPI全体の36.2%、コアの45.4%、コアのサービス部分の59.4%と相당한部分を占める住居費が期待ほど鈍化しなかったことが背景にあります。住居費の伸びは前年比+6.0%と12月の+6.2%から鈍化し、10カ月連続の鈍化となりました。このうち帰属家賃(OER)が前年比+6.2%と12月の+6.3%から小幅な鈍化となりました。前月比では+0.6%となっており、昨年4月以来の伸びです。この伸びが予想外となり、全体を押し上げました。

こうした状況を受けて今回の市場予想ですが前年比+3.1%と1月と同水準の伸びが見込まれています。コアは+3.7%と1月から伸びが鈍化見込みです。前月比では+0.4%と1月の+0.3%から伸びが強まる見込み。コア前月比は+0.3%と1月から伸びが鈍化する見込みです。

ガソリン小売価格が2月は1ガロン当たり3.328ドル(全米全種平均・米エネルギー情報局調査)と1月の3.197ドルから上昇。前月比で4.1%の上昇となります。前年比ではどちらもマイナスですがEIAベースの数字だと、1月が-7.2%に対して2月は-4.9%までマイナス幅が縮小します。CPIは都市部のみのデータで全米のデータであるEIAとイコールではありませんが傾向は一致しますので、エネルギー価格が全体を支えると見られます。

その他項目では半導体不足からの供給制限の緩和が改善している自動車部門の価格低下が継続して見込まれていることなどもあり、全体に低めの数字が見込まれます。

前回伸びが予想を超えた主要因として、帰属家賃内の一戸建て住宅と集合住宅のウェイトが予想外に変更された影響が指摘されています。今回の予想はウェイト変更を加味したうえで立てられていることから、前回のようなサプライズにはなりにくいです。とはいえ0.1%の小幅な乖離であっても市場予想からの乖離には反応が出ることの多いCPIだけに、予想からのブレには要注意です。予想を下回る伸びに留まると、ドル売りの流れがさらに加速する可能性があります。

山岡和雅 | ミンカブソリューションサービシーズ 編集長

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシーズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシーズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシーズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。